



Title	杉本孝司教授略歴および主要研究業績
Author(s)	
Citation	大阪大学英米研究. 2014, 38, p. 3-10
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99375
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



杉本 孝司 先生

杉本孝司教授

略歴および主要研究業績

【略歴】

1967年 4月 大阪外国語大学外国語学部英語学科入学
1971年 3月 同上卒業
1971年 4月 大阪外国語大学大学院外国語学研究科修士課程英語学専攻入学
1973年 3月 同上修了
1973年 4月 大阪外国語大学外国語学部助手
1977年 1月 大阪外国語大学外国語学部講師
1982年10月 大阪外国語大学外国語学部助教授
1993年 1月 大阪外国語大学外国語学部教授
1999年11月 大阪外国語大学学生部長（併任；2000年 3月まで）
2000年 4月 大阪外国語大学副学長（併任；2003年 2月まで）
2007年10月 大阪大学大学院言語文化研究科教授
2007年10月 大阪大学外国語学部学部長（併任・再任；2011年 9月まで）
2009年 8月 大阪大学総長補佐（併任・再任；2011年 8月まで）
2014年 3月 定年により退職

[上記期間中における主たる在外研修機関 East-West Center, University of Hawaii at Manoa, University of Essex, University of California at Berkeley]

【取得学位】

1973年 3月 文学修士 大阪外国語大学大学院外国語学研究科
1982年 5月 Doctor of Philosophy, Linguistics University of Hawaii at Manoa

【研究論文・著書・翻訳】

1. 「大阪弁におけるピッチアクセントの一面」(1969年4月)『外語論叢』 vol.1, No.1. 大阪外大文連協.
2. *What can Logic offer?* (1973年1月11日) 大阪外国語大学修士論文, pp150.
3. "What do you think about how we think? --- A case study of some rhetorical expressions" (1973年12月1日) *Nebulae* Vol.1, pp71-92. Osaka Gaidai Linguistic Circle.
4. "A grammatical nonfiction" (1974年3月)『英米研究 (8)』 pp39-57. 大阪外国語大学英語研究室.
5. "Notes on a Kalam relative clause construction and some related problems" (1975年9月-12月) *Working Papers in Linguistics* 7.5, pp35-62, University of Hawaii.
6. "Three senses of abstractness in phonology" (1976年11月) *Nebulae* Vol.2, pp62-84. Osaka Gaidai Linguistic Circle.
7. "Word order and movement process." (1977年3月)『英米研究 (10)』 pp113-124. 大阪外国語大学英語研究室.
8. "Notes on RCC" (1977年10月) *Nebulae* Vol.3, pp131-186. Osaka Gaidai Linguistic Circle.
9. "On process model phonology" (1978年3月)『学報 42』(言語篇) pp157-168. 大阪外国語大学.
10. "Conjoined NPs in PTQ" (1979年3月)『英米研究 (11)』 pp37-49. 大阪外国語大学英語研究室.
11. 「"Both" について」(1979年10月)『英語と日本語と - 林栄一教授還暦記念論文集』 pp141-152. くろしお出版.
12. "Toward providing an input to Relational Grammar from Montague Grammar: a preliminary sketch" (1980年3月)『英米研究 (12)』 pp125-138. 大阪外国語大学.
13. "Compositionality and expletives" (1980年3月1日)『学報 48』(言語篇) pp87-102. 大阪外国語大学.
14. *Transformational Montague Grammatical Studies of Japanese* (1982年5月) Ph.D. Dissertation, University of Hawaii, pp524+xiii. (Available from UMI)
15. "Forward reflexivization in Japanese reconsidered." (1983年3月24日)『学報 62』(言語篇) pp55-62. 大阪外国語大学.
16. 「義務規則と規則の個別化」(1983年3月30日)『英米研究 (13)』 pp65-72. 大阪外国語大学英語研究室.
17. 「モンテギュー文法の話」(1983年4月10日)『日本語学』 1983年4月号, vol. 2, pp78-88. 明

治書院.

18. "Remarks on being nonconfigurational" (1983年7月16日) *Papers from the Kyoto Workshop on Japanese Syntax and Semantics*, pp39-47. The Kyoto Circle for Japanese Linguistics.
19. "Remarks on bare common nouns in Japanese" (1984年3月20日)『学報 64』 pp251-281. 大阪外国語大学 創立60周年記念.
20. "Remarks on negation" (1985年3月30日)『英米研究 (14)』 pp107-124. 大阪外国語大学英語研究室.
21. "Just a dream?" (1987年2月28日)『英米研究 (15)』 pp133-138. 大阪外国語大学英語研究室.
22. 「アスペクト・モデル - 形式意味論からの回顧と展望」(1987年3月25日)『外国語研究と言語情報処理』 pp33-58. 昭和61年度特定研究研究成果論文集.
23. 「直接写像仮説と派生行間対応制約」(1987年3月30日)『言語学の視界』 pp17-29. 小泉保教授還暦記念論文集. 大学書林.
24. 「言語の機械処理の前提となる理論言語学の研究」(1987年3月)『言語情報処理のための基礎的研究』 pp45-48. 昭和61年度科学研究費補助金特定研究 (1).
25. 『英語学I 統語論・音韻論』(上田功氏と共著)(1987年4月25日) pp364+xvi. 大阪教育図書.
26. "A program for formal semantics and metaphors" (1988年2月29日)『英米研究 (16)』 pp167-190. 大阪外国語大学英語研究室.
27. 「モンタギュー文法」(1988年4月25日)『言語学の潮流』(林栄一・小泉保(編)) pp222-241. 勁草書房.
28. 「タイプ、メタファー、ポインター」(1992年3月31日)『英米研究 (18)』 pp71-83. 大阪外国語大学英語研究室.
29. 「英語の受動文」(1992年3月31日)『英語圏世界の総合的研究』 pp1-12. 平成4年度特定研究 (1). 大阪外国語大学.
30. 「複文(?) と他動性の接点 - R-系列表現から -」(1995年5月26日)『複文の研究 (上)』(仁田義雄(編)) pp55-62. くろしお出版.
31. 「意味論」(1997年2月20日)『日英語対照による英語学概論』(西光義弘 編) pp375+x. くろしお出版. pp185-242.
32. 『意味論1 - 形式意味論 -』(1998年3月25日) pp216+x. (西光義弘(編集) 日英語対照による英語学演習シリーズ5) くろしお出版.
33. 『意味論2 - 認知意味論 -』(1998年11月1日) pp192+vi. (西光義弘(編集) 日英語対照による英語学演習シリーズ8) くろしお出版.

34. 「コトバからヒトへ」(1999年4月1日) *EX ORIENTE*, pp3-23. 大阪外国語大学言語社会学会誌.
35. 「不変性仮説」(翻訳) "The Invariance Hypothesis" by George Lakoff. (2000年8月10日) 坂原茂 (編)『認知言語学の発展』pp1-59. ひつじ書房.
36. 「なぞなぞの舞台裏 - その理解と認知能力」(2002年10月10日) 大堀壽夫 (編)『認知言語学Ⅱ: カテゴリー化』pp59-78. (シリーズ言語科学3巻). 東京大学出版会.
37. 「認知言語学から見た動詞」(2002年11月1日)『月刊 言語』Vol. 31, No.12, pp47-55. 大修館書店.
38. 「類似性と共通スペース: メタファ理論とスペース融合モデルの観点から」(研究ノート) (2004年3月31日)『英米研究』第28号, pp195-202. 大阪外国語大学英米学会.
39. 「認知言語学と異文化理解」(2006年3月1日) 細谷昌志 (編)『異文化コミュニケーションを学ぶ人のために』pp16-32. 世界思想社.
40. 「メトニミとメタファ: 写像と類似性の観点から」(研究ノート) (2006年3月31日刊)『英米研究』第30号, pp99-105. 大阪外国語大学英米学会.
41. 「不変性仮説と類似性」(2006年4月30日)『言外と言内の交流分野: 小泉保博士傘寿記念論文集』pp305-310. 大学書林.
42. 「メタファと意味理解」(2006年9月10日)『日本認知言語学会論文集 第6巻』pp508-518. 日本認知言語学会.
43. 「メタファとカテゴリー化」(研究ノート) (2007年3月31日)『英米研究』第31号, pp61-68. 大阪外国語大学英米学会.
44. 「認知意味論へのいざない」(2008年3月31日) 木村健治・金崎春幸 (共編)『言語文化学への招待』pp267-279. 大阪大学出版会.
45. 「形式意味論に関する幾つかの疑問—認知意味論の観点から—」(2011年5月31日)『言語文化共同研究プロジェクト2010 言語における時空をめぐって IX』pp21-30. 大阪大学大学院言語文化研究科.
46. 「不変性仮説とカテゴリー化」(2012年5月31日)『言語文化共同研究プロジェクト2011 時空と認知の言語学 I』pp21-28. 大阪大学大学院言語文化研究科.
47. 「ピダハン語とリカーション—認知言語学からの覚書—」(2013年5月31日)『言語文化共同研究プロジェクト2012 時空と認知の言語学 II』pp21-28. 大阪大学大学院言語文化研究科.
48. 「普遍性と特殊性 ヨーロッパの言葉と文化を考えるために」(2013年10月10日) 野村泰幸 (編)『ヨーロッパ・ことばと文化—新たな視座から考える』pp1-19. 大阪大学出版会.

49. 「認知意味論」(2013年11月22日) 高見健一・三原健一 (編)『日英対照 英語学の基礎』pp147-176. くろしお出版.

【辞典項目執筆・書評・紹介記事】

1. 『現代英文法辞典』(項目執筆)(1992年7月) 三省堂.
2. *Introduction to Montague Semantics*, (書評) xi+pp313. Dordrecht: D. Reidel Publishing Company. (1985年12月)『言語研究』第88号, pp97-103. 日本言語学会.
3. *Give: A Cognitive Linguistic Study*. (書評) N.Y.: Mouton de Gruyter, 1996. Ex Oriente Vol. 5, 2001. 大阪外国語大学言語社会学会, pp271-285.(藤原由美氏と共同執筆)
4. 『認知科学辞典』(項目執筆) 共立出版. (2002年7月30日)(ISBN4-320-09445-X) 日本認知科学会 (編) A5判, 1030頁.
5. 『認知意味論のしくみ』(紹介記事) 研究社、初山洋介著, viii+190頁. 『月刊言語』 Vol. 31, No. 4, p.183. 大修館書店. (2002年4月)
6. 『認知言語学キーワード事典』(紹介記事) 研究社、辻幸夫 (編), A5判 xii+314頁. 『英語青年』 Vol. 148, No. 12, pp45-46. 研究社. (2003年3月)
7. 『認知文法の新展開 -カテゴリー化と用法基盤モデル』研究社、早瀬尚子・堀田優子, A5判 viii+220頁. 『月刊 言語』 Vol. 35, No. 1, p.121. 大修館書店. (2006年1月)

【研究発表】

1. 「モンテギュー文法と再帰化」(1982年10月) 日本言語学会第85回大会研究発表 (『言語研究』第83号, pp138-141所収)
2. "DREAM #1" & "DREAM #2" (1986年12月13日) 土曜ことばの会 (於京大会館)
3. 「言語の機械処理の前提となる理論言語学の研究」(1987年2月6日) 昭和61年度科学研究費特定研究 (1) 研究報告会発表資料 (pp35-38) .
4. 「形式意味論とメタファー」(1987年7月4日) 対話研究集会 (於 ATR)
5. "On relational interpretation." (1989年7月15日) 土曜ことばの会 (於大阪大学日本学科視聴覚室)
6. 「形式意味論的アプローチ」(1989年11月11日) 第14回関西言語学会 (於大阪外国語大学) (KLS 10, pp83-84所収)

7. 「タイプ、メタファー、ポインター」(1990年11月25日) 日米文化系学術交流研究集会・第27回待兼山ことばの会。
8. 「タイプ、メタファー、ポインター」(1993年12月14日) 第25回中部言語学会・定例研究会 (於静岡大学)
9. 「英語受動文」(1993) 日本英文学会中部地方支部大会 (於岐阜大学)
10. 「英語学における範疇と範疇化」(1997年11月26日) フランス語学談話会 (於京大会館)
11. 「言語理解と認知モデル」[講演](1998年9月26日) 京都ドイツ語学研究会第39回例会 (於関西ドイツ文化センター京都)
12. 「写像制約について」(2003年10月19日) 第28回関西言語学会 (於神戸市外国語大学)
13. 「メタファ理論の貢献と今後」(2003年11月16日) 日本英語学会第21回大会シンポジウム『メタファ理論を考える』(於静岡県立大学)
14. 「認知言語学の射程と言語普遍」(2005年3月3日) 国際シンポジウム「アジア系諸語の言語資源構築と言語社会デザイン」&ワークショップ「アジア系言語資源構築と言語普遍への挑戦」大阪外国語大学／多言語処理プロジェクト (於千里ライフサイエンスセンター) (『他言語同時処理によるアジア系言語の自然言語翻訳に関する研究』pp45-52. 研究代表者 高階美行. 平成14～16年度科学研究費補助金研究成果報告書、基盤研究 (B)(2)、研究課題番号14310220)
15. 「メタファと意味解釈」(2005年9月18日) 日本認知言語学会第6回大会シンポジウム『認知意味論の新展開 ―メタファを中心に―』(於お茶の水女子大学)
16. 「不変性仮説とカテゴリー化」(2006年8月26日) 京都言語学コロキウム第3回年次大会 (KLCAM-3) (於京都大学 芝蘭会館)

【英語検定教科書・語学教科書】

1. *The Beatles* (by Chris Mosdell) (1984年12月30日) 金星堂 (pp120) (共同執筆者：西光義弘)
2. *The Beatles Story* (by Alan Posener) (1987年12月20日) マクミラン・ランゲージハウス (pp120)
3. *OCEAN English Course I* 新興出版社啓林館 [61啓林館 英I 325] (1990年3月31日) / [61啓林館 英I 520] 1996年3月31日 (改訂版) 編集委員5名による共同執筆 (本教科書用 Teacher's Manual も編集委員5名により共同執筆)
4. *OCEAN English Course II* 新興出版社啓林館 [61啓林館 英II 367] (1991年3月31日) / [61啓林館 英II 570] 1997年3月31日 (改訂版) 編集委員5名による共同執筆 (本教科書

用 Teacher's Manual も編集委員5名により共同執筆)

5. *English à la carte* (1991年3月1日) 大学書林 (pp52)
6. *Tomorrow English Course I* 新興出版社啓林館 [61啓林館 英 I 619] (1997年12月10日)
編集委員6名による共同執筆 (本教科書用 Teacher's Manual も編集委員6名により共同執筆; 編集委員長を兼任)
7. *Tomorrow English Course II* 新興出版社啓林館 [61啓林館 英 II 668] (1998年12月10日)
編集委員6名による共同執筆 (本教科書用 Teacher's Manual も編集委員6名により共同執筆; 編集委員長を兼任)

【その他 (英語教育・啓蒙的エッセイ等)】

1. 「思い付くままに」(一、二、三) (1993年6月、7月、9月)『啓林』(1993 No.100 (pp7-10), 101 (pp7-10), 102 (pp7-10)) 新興出版社啓林館
2. 「情報処理関連機器利用に関して今後望まれること」(1994年3月31日)『大阪外国語大学での情報処理・研究のありかたについて』pp90-92. 平成5年度教育研究学内特別経費プロジェクト研究成果報告書. 大阪外国語大学.
3. 「ハイパカード・スクリプト: QuickTime Movies の利用にむけて」(1994年3月31日)『大阪外国語大学での情報処理・研究のありかたについて』pp23-31. 平成5年度教育研究学内特別経費プロジェクト研究成果報告書. 大阪外国語大学.
4. 「LL 教材提示用ハイパカードスクリプト例 - 研究ノート & 資料」(1994年3月31日)『英米研究 (19)』pp97-114. 大阪外国語大学英语研究室.
5. 「学内 LAN & インターネット利用にむけて: Macintosh の場合」(1995年3月31日)『大阪外国語大学での情報処理機器・学内 LAN 利用の研究』pp26-49. 平成6年度教育研究学内特別経費プロジェクト研究成果報告書. 大阪外国語大学.
6. 「パークレー Computing 事情」(1996年3月31日)『大阪外国語大学情報処理室広報』pp14-18.
7. 「マックでインターネットを利用する準備 (改訂版)」(1997年3月31日)『大阪外国語大学学内 LAN 利用の実際と今後』pp63-82. 平成8年度教育研究学内特別経費プロジェクト研究成果報告書. 大阪外国語大学.
8. 「英語学への招待: 意味論の流れから - 若き学生諸君へ -」(1998) 池田修 (監修)『世界地域学への研究案内』pp311-320 嵯峨野書院
9. 「OS 8.0 関連と Sherlock」(1999年3月31日)『大阪外国語大学学内 LAN の展開』pp65-73.

- 平成10年度教育研究学内特別経費プロジェクト研究成果報告書. 大阪外国語大学.
10. 「ネット時代のミニミニ社会言語学」(2000年3月31日)『大阪外国語大学における情報処理教育・研究の高度化』pp28-34. 平成11年度教育研究学内特別経費プロジェクト研究成果報告書. 大阪外国語大学.
 11. 「副専攻語英語を考える」(2001年3月)『大阪外大全体の効果的な英語教育』pp37-46. 平成12年度大阪外国語大学特別教育学内研究経費（学長裁量）研究成果報告書. 大阪外国語大学外国語学部.
 12. 「語学教育とFDの取り組み」(前編・後編)『文部科学教育通信』(2001年12月24日号, pp22-23・2002年2月11日号, pp22-23. ジェアース教育新社.
 13. 「大阪外国語大学における英語教育雑感」(2002年3月)『大阪外大全体の効果的な英語教育』pp9-18. 平成13年度大阪外国語大学特別教育学内研究経費（学長裁量）研究成果報告書. 大阪外国語大学外国語学部.
 14. 「大阪における高大連携の現状と課題」(2005年3月)『第54回全国英語教育研究大会紀要』pp165-168. 全国英語教育研究団体連合会.
 15. 「特集『認知言語学と外国語教育』に寄せて」(2006年4月30日)『エクスオリエンテ』Vol. 13, pp1-4. 大阪外国語大学言語社会学会.
 16. 「統合の姿、当面の課題」(2008年3月10日)『2007月例講演集』pp191-208. 咲耶会（大阪外国語大学同窓会）東京支部事務局.